

は約 3.8 人、なお、「最近 6 ヶ月間の相手の数」という質問については、この間に付き合いがあった女子のうちの相手の人数は約 1.8 人で、男子では約 1.7 人であった。

そして、「ステディーな付き合い」については、はじめて損経験をもった平均年齢は男女共に約 13.6 歳であった。そして、その初めてのときの「相手の年齢」については、女子では自分の年齢より上でその相手の平均年齢は 16 歳であったことに対し、男子の相手の平均年齢は約 12.8 歳であった。そして、「相手の総人数」に関しては、女子で約 1.3 人、男子で約 1.6 人であった。なお、「過去 6 ヶ月間の相手の数」に関しては、この

期間中に付き合いがあった回答者のみの回答で、女子群の相手の平均人数は 1.2 人で、男子では 1.17 人であった。

なお、「性経験」があると回答した生徒は非常に少なく、女子の性経験者で初めての経験の平均年齢は約 14.7 歳で、男子の平均年齢は約 15.3 歳であった。そして、初めての経験の時の「相手の年齢」については、男女ともにはじめての相手の平均年齢は約 17 歳であった。そして、相手の人数に関しては、女子の平均総人数は 2 人で、男子のは 6 人であり、過去 6 ヶ月の相手の数に関しては、女子では 1 人、男子では約 3.3 人であった。(表 11)

(表 10 : ブラジル人学校を対象に介入の事前アンケート調査 - 男女別・付き合い経験の有無及び、性経験の有無)

性別	経験の有無	「その場限りの付き合い」		「ステディーな付き合い」		「性経験」	
		人数	有効%	人数	有効%	人数	有効%
女子	経験あり	22	55.0	15	37.5	3	7.3
	経験なし	18	45.0	25	62.5	38	92.7
	合計	40	100.0	40	100.0	41	100.0
男子	経験あり	25	62.5	15	37.5	3	7.3
	経験なし	15	37.5	25	62.5	38	92.7
	合計	40	100.0	40	100.0	41	100.0

(表 11：ブラジル人学校を対象に介入の事前アンケート調査 - 男女別・付き合い経験や性経験における本人と相手の年齢及び、相手の数)

「その場限りの付き合い」					
性別		1. 最初に付き合ったときの年齢	2. 最初の相手の年齢	3. 相手の数	4. 過去6ヶ月内の相手の数
女子	平均値	11.90	13.90	4.95	1.79
	度数	21	21	21	14
	標準偏差	1.79	2.95	4.78	1.12
	中央値	11.00	14.00	3.00	1.50
男子	平均値	11.56	12.12	3.80	1.67
	度数	25	25	20	15
	標準偏差	2.123	2.698	2.783	.816
	中央値	11.00	12.00	3.00	1.00
「ステディーな付き合い」					
性別		1. 最初に付き合ったときの年齢	2. 最初の相手の年齢	3. 相手の数	4. 過去6ヶ月内の相手の数
女子	平均値	13.60	16.00	1.29	1.20
	度数	15	15	14	10
	標準偏差	1.68	3.76	.47	.42
	中央値	13.00	16.00	1.00	1.00
男子	平均値	13.64	12.73	1.58	1.17
	度数	14	15	12	6
	標準偏差	1.86	1.22	.996	.41
	中央値	14.00	13.00	1.00	1.00
「性交渉」					
性別		1. 初体験の年齢	2. 初体験相手の年齢	3. 相手の数	4. 過去6ヶ月内の相手の数
女子	平均値	14.67	17.00	2.00	1.00
	度数	3	3	3	3
	標準偏差	1.15	3.00	1.00	.00
	中央値	14.00	17.00	2.00	1.00
男子	平均値	15.33	17.33	6.00	3.33
	度数	3	3	3	3
	標準偏差	.57	.57	7.81	4.16
	中央値	15.00	17.00	2.00	2.00

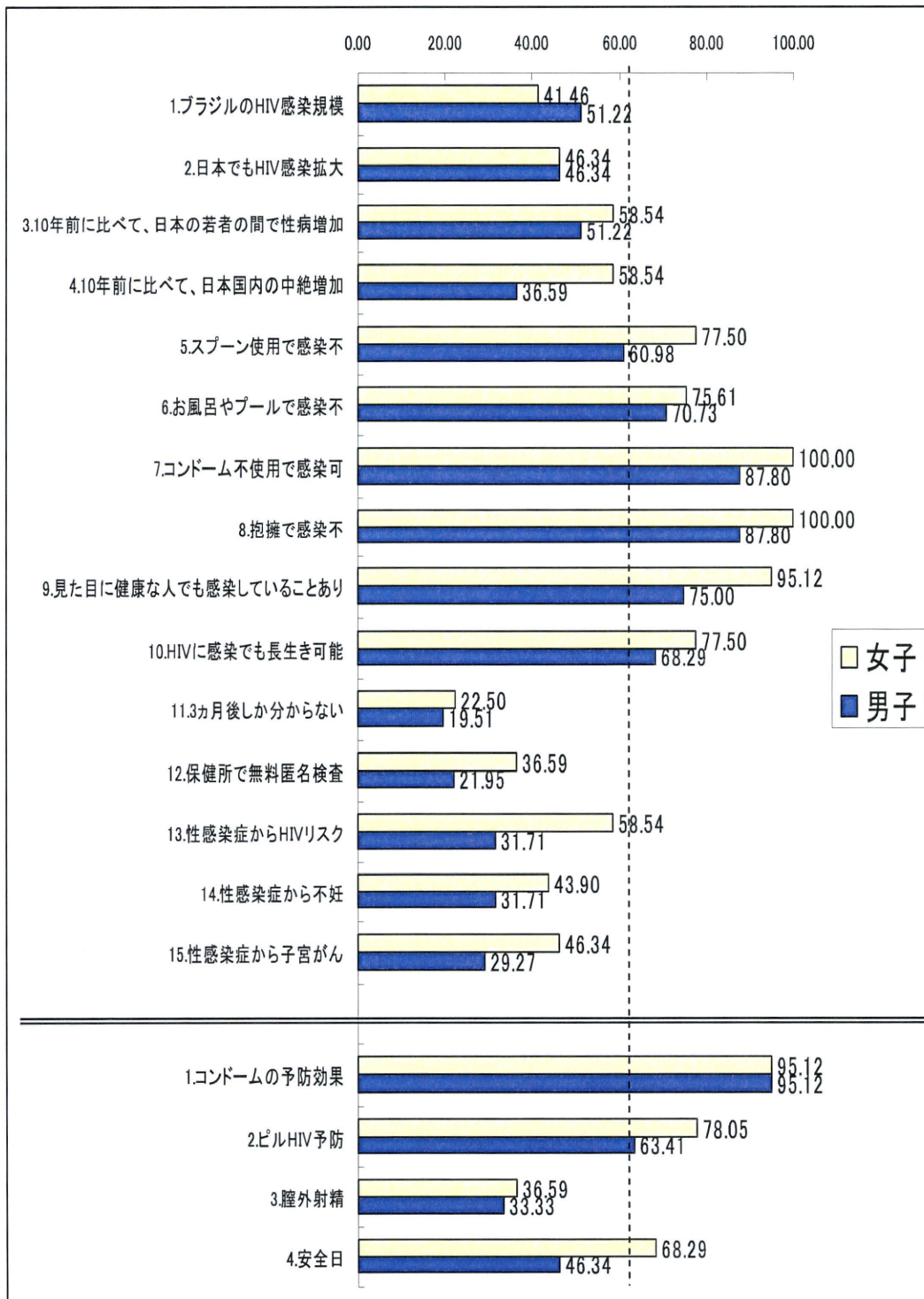
「HIV・STD 関連の知識」についての項目に関しては、全体的に女子の方が情報を持っていることが分かり、特に「感染経路」、「HIV 陽性でも見た目は変わらない」や「HIV にかかっても長生きできる」などについての知識については 7 割以上、項目については 100%の正解率を見せて、男子でも比較的高い知識度であったが、7-8 割に留まった。

しかし、ブラジル・日本ともにおける「HIV 感染の規模」については、認知度が男女ともに 4 割程度にしかとどかず、また、「HIV 検査」関係の項目についても 2 割から 3 割強しかの認知度がないことが分かった。そ

して、「STD 関連」については、女子の知識度が男子より高い傾向であったが、女子で 4 割程度、男子では 3 割に留まった。

なお、「避妊方法」に関する知識については、これもやはり女子の方の認知度が高く、「ピルの避妊効果」については約 8 割が知っていた、しかし、「“安全日”を利用しての避妊効果がない」の知識については 6 割強程度であった。そして、「“膣外射精”が避妊効果がない」ということについては、男女共に低い認識度であり、3.5 割程度にしかならなかった。(表 12)

(表 12 : ブラジル人学校を対象に介入の事前アンケート調査 - 男女別・HIV 関連の知識度)



今、現在の年齢での「性経験」への容認に関しては「分からない」と回答した生徒を省いて、女子の間では容認しない生徒が多

く約 63.4%が容認しないと回答したが、男子では容認する生徒が多く、43.9%が容認すると回答した。(表 13)

(表 13: ブラジル人学校を対象に介入の事前アンケート調査 - 男女別・現在の年齢での性経験への容認)

今のあなたの年齢で性経験をもつことを肯定する			
性別	選択肢	人数	有効パーセント
女子	全くその通り	4	9.8
	その通り	7	17.1
	違う	7	17.1
	全然違う	19	46.3
	分からない	4	9.8
	合計	41	100.0
男子	全くその通り	10	24.4
	その通り	8	19.5
	違う	4	9.8
	全然違う	11	26.8
	分からない	8	19.5
	合計	41	100.0

「避妊」への assertiveness については「若ならない」を省いて、女子では約 56.1%が「赤ちゃんが欲しくない時に避妊できる」と答えているが、同じく「赤ちゃんがまだ欲しくなくても妊娠する可能性がある」と言う質問を否定して女子生徒は僅か 7.3%であった。男子では、「避妊できる」と回答した男子生徒は約 41.5%で、「相手を妊娠さ

せる」ことを否定した生徒は約 9.7%であった。

「STD・HIV 予防」に関しても、男女共に「予防できると思う」については肯定的であるが (6-8 割以上)、「感染しない」確信は低いもので、最も確信が高かったのは男子で HIV に感染しないであり、約 4 割であった。(表 14)

(表 14: ブラジル人学校を対象に介入の事前アンケート調査 - 性別・避妊や HIV/STD 予防への意識と実現力について)

		将来、赤ちゃんがまだほしくなくても妊娠する(させる)可能性がある		将来、赤ちゃんがまだほしくないと避妊できる	
性別	選択肢	人数	有効%	人数	有効%
女子	全くその通り	19	46.3	13	31.7

	その通り	13	31.7	10	24.4
	違う	1	2.4	6	14.6
	全然違う	2	4.9	2	4.9
	分からない	6	14.6	10	24.4
	合計	41	100.0	41	100.0
男子	全くその通り	17	41.5	12	29.3
	その通り	9	22.0	5	12.2
	違う	3	7.3	2	4.9
	全然違う	1	2.4	7	17.1
	分からない	11	26.8	15	36.6
	合計	41	100.0	41	100.0
		将来、性関係を持つ場合、STD感染する可能性があると思う		将来、性関係を持つ場合、STD予防ができると思う	
性別	選択肢	人数	有効%	人数	有効%
女子	全くその通り	4	9.8	19	46.3
	その通り	11	26.8	13	31.7
	違う	2	4.9	1	2.4
	全然違う	4	9.8		
	分からない	20	48.8	8	19.5
	合計	41	100.0	41	100.0
男子	全くその通り	5	12.2	17	41.5
	その通り	4	9.8	4	9.8
	違う	5	12.2	2	4.9
	全然違う	10	24.4	1	2.4
	分からない	17	41.5	17	41.5
	合計	41	100.0	41	100.0
		将来、性交渉でHIVに感染する可能性があると思う		将来、HIVの予防ができると思う	
性別	選択肢	人数	有効%	人数	有効%
女子	全くその通り	6	14.6	23	56.1
	その通り	10	24.4	13	31.7
	違う	1	2.4	0	0
	全然違う	6	14.6	0	0
	分からない	18	43.9	5	12.2
	合計	41	100.0	41	100.0
男子	全くその通り	5	12.5	20	50.0
	その通り	5	12.5	3	7.5
	違う	7	17.5	2	5.0
	全然違う	10	25.0	1	2.5
	分からない	13	32.5	14	35.0
	合計	40	100.0	40	100.0

「コンドーム使用」については男女共にコンドームを使いたい希望は高く、特に女子の間では「希望する」生徒は95%にのぼり、男子でも80.5%であった。一方、「実際に使えるか」については、男女共に「実行力」

は希望より低いものであった。女子では「実際に使える」と回答した生徒は約73%に下がり、男子でも70.7%に下がっている。(表15)

(表15：ブラジル人学校を対象に介入の事前アンケート調査 - 男女別・コンドーム使用への意識と実現力について)

性別	選択肢	将来の性交渉時コンドーム使用の希望がある		将来の性交渉時コンドーム実際に使用できると思う	
		人数	有効%	人数	有効%
女子	全くその通り	36	90.0	24	58.5
	その通り	2	5.0	6	14.6
	違う	0	0	4	9.8
	全然違う	1	2.5	0	0
	分からない	1	2.5	7	17.1
	合計	40	100.0	41	100.0
男子	全くその通り	27	65.9	23	56.1
	その通り	6	14.6	6	14.6
	全然違う	0	0	3	7.3
	分からない	0	0	1	2.4
	分からない	8	19.5	8	19.5
	合計	41	100.0	41	100.0

「エイズ予防教育」の有無に関しては、複数回答で約 8 割が何らかの形の教育を受けていると回答した。男女共に最も多く受けた教育方法は「教科書」であり、女子では約 7 割、男子では約 6 割であった。次に多

かった教育方法は「学校の研究活動」と「外部のブラジル人講師」であり、外部講師に関しては女子の約 2 割、そして、男子の約 1.5 割が講義を受けていた。(表 16)

(表 16：ブラジル人学校を対象に介入の事前アンケート調査 - 男女別・HIV/STD/避妊に関する様々な教育法への暴露の有無)

この1年、エイズ、HIV、セクシュアリティ予防関連の活動に参加または活動しましたか？			
性別	選択肢 (複数回答可)	人数	%
女子	1.教科書	29	70.7%
	2.学校の研究活動	5	12.2%
	3.日本人講師	0	.0%
	4.ブラジル人講師	8	19.5%
	5.学校の先生	2	4.9%
	6.その他	0	.0%
	7.どれもない	7	17.1%
	合計	41	100.0%
男子	1.教科書	24	58.5%
	2.学校の研究活動	7	17.1%
	3.日本人講師	1	2.4%
	4.ブラジル人講師	6	14.6%
	5.学校の先生	5	12.2%
	6.その他	0	.0%
	7.どれもない	10	24.4%
	合計	41	100.0%

「当研究グループのパンフレット」への暴露の有無については、アンケート調査に答えた女子の45%、男子の27.5%が「パンフレットを知っている」と回答した。また、「パンフレットを知っている」と回答した生徒のうち、女子で約75%が「読んだ(=

1回読んだ+複数回読んだ)」と回答し、男子では約77%が同じく「読んだ」と回答した。しかし、「まだ所有している」生徒は少なく、男女ともに2割程度であった。(表17)

(表 17: ブラジル人学校を対象に介入の事前アンケート調査 - 男女別・当研究グループ作成のパンフレットへの暴露の有無)

当研究グループのパンフレットを知っている？			
性別	選択肢	人数	有効%
女子	はい	18	45.00
	いいえ	20	50.00
	分からない	2	5.00
	合計	40	100.00
男子	はい	11	27.50
	いいえ	27	67.50
	分からない	2	5.00
	合計	40	100.00
当研究グループのパンフレットを読んだことある？			
性別	選択肢	人数	有効%
女子	1回だけ	11	55.00
	複数回	4	20.00
	いいえ	4	20.00
	分からない	1	5.00
	合計	20	100.00
男子	1回だけ	4	30.77
	複数回	6	46.15
	いいえ	3	23.08
	合計	13	100.00
当研究グループのパンフレットを所有している？			
性別	選択肢	人数	有効%
女子	家に持っている	4	20.00
	いいえ	14	70.00
	分からない	2	10.00
	合計	20	100.00
男子	学校に持っている	1	7.69
	家に持っている	2	15.38
	いいえ	9	69.23
	分からない	1	7.69
	合計	13	100.00

「当研究グループが管理している若者向けのホームページ (vidadolescente) の認知の有無について、「知っている」と答えた生徒は少なく、女子では 5%未で、男子ではさら認知度が低く、2.5%であった。(表 18)

(表 18 : ブラジル人学校を対象に介入の事前アンケート調査 - 男女別・当研究グループ管理の若者向けのホームページへの暴露の有無)

当研究グループのサイトを知っているか			
性別	選択肢	人数	有効%
女子	はい	2	5.0
	いいえ	37	92.5
	分からない	1	2.5
	合計	40	100.0
男子	はい	1	2.4
	いいえ	39	95.1
	分からない	1	2.4
	合計	41	100.0

2. 「当研究グループのパンフレット」と「HIV 関連の知識」や「コンドーム使用への認識」の関連性の分析

「当研究グループのパンフレット」への暴露の有無と「HIV 関連の知識」の度合いを調べると、女子では、パンフレットを読んだ人と、読んでない人との知識度の差は見れなく、項目によってはパンフレットを読んでない人のほうが知識度が高い傾向である項目もあった。しかし、男子では、パンフレットに暴露された男子グループのほうが認知度が高い傾向である項目があり、特に「ブラジルの HIV 感染の規模」、「日本の若者の間で性病が増加している」、「保健

所の無料匿名の HIV 抗体検査」や「性感染症から子宮頸がんになりやすい」などの項目で、認知度が高い傾向であった。(表 19)

そして、「当研究グループのパンフレット」への暴露の有無と「コンドーム使用への認識」について調べたところ、特に男子の間で、暴露されたグループのほうがコンドーム使用への「希望」と「実施力」が高い傾向にあると見られた。(表 20)

(表 19 : ブラジル人学校を対象に介入の事前アンケート調査 - 男女別・パンフレットへの暴露の有無と知識度の変動について)

当研究グループのパンフレットを読んだことがある？		女子		男子	
知識項目	暴露の有無	人数	%	人数	%
1. ブラジルの HIV 感染規模	読んだ	5/15	33.3	7/10	<u>70.0</u>
	読まなかった	3/5	60.0	1/3	33.3
3. 10 年前に比べて、日本の若者の間で性病増加	読んだ	10/15	66.7	6/10	<u>60.0</u>
	読まなかった	5/5	100.0	1/3	33.3

12. 保健所で無料匿名検査	読んだ	8/15	53.2	5/10	<u>50.0</u>
	読まなかった	3/5	60.0	0/3	0.0
15. 性感染症から子宮がん	読んだ	8/15	53.3	6/10	<u>60.0</u>
	読まなかった	4/5	80.0	0/3	0.0

(表 20 : ブラジル人学校を対象に介入の事前アンケート調査 - 男女別・パンフレットへの暴露の有無とコンドーム使用への意識の変動について)

コンドーム使用への意識 (全くその通り+その通り)		女子		男子	
	暴露の有無	人数	%	人数	%
将来、性関係を持った場合、コンドームを使いたいと思う	読んだ	14/14	100.0	10/10	<u>100.0</u>
	読まなかった	14/14	100.0	2/3	66.6
将来、性関係を持った場合、コンドームを実際に使えると思う	読んだ	12/15	<u>80.0</u>	7/10	<u>70.0</u>
	読まなかった	3/5	60.0	2/3	66.6

(3) ブラジル人学校を対象とした HIV 関連予防教育における講演会

事前調査の結果および、当研究グループの過去のデータを基に構成された講演会をブラジルから招聘された若者が実施した。(図 13)

講演会の参加人数：

- ア) 11月24日 Santana ブラジル人学校 (滋賀県) : 11歳から15歳までの男女約30名 (大人は不参加)
- イ) 11月25日 Instituto Educare ブラジル人学校 (茨城県) : 14歳から17歳までの18名の男女 (大人は不参加)
- ウ) 11月25日 Colegio Opcao ブラ

ジル人学校 (茨城県) : 2つのグループに分けて、12-14歳のグループ (16名の男女)、15-18歳のグループ (25名の男女) (低年齢グループのみに大人も参加 : 先生1名、保護者2名)

- エ) 11月26日 Colegio Desafio ブラジル人学校 (長野県) : 30名の12-18歳までの男女 (先生4名も参加)
- オ) 11月30日 Nippaku 学園 ブラジル人学校 (群馬県) : 14-17歳までの20名の男女 (大人は不参加)

(図 13 : ブラジル人学校を対象に介入講演会の風景 : 招聘された若者 - ポルトガル語フリーペーパー Alternativa 2010年12月16日発行誌に記載)



comunidade **saúde**

Brasil. Lá também há muitos jovens que necessitam de informação, muitos nem sabem como pega ou não a aids.

Hoje, os jovens têm esse acesso à informação na internet, televisão...
Sim, mas muita coisa que está na internet está errada. Eles não têm o acesso à informação, sabem, mas não colocam em prática.

Você está no último ano do ensino médio. Já sabe o que quer fazer?
Deixo a filosofia. Acho que devo ir tudo a ver comigo, de ajudar as pessoas, a filosofia para pensar numa forma diferente da vida.

O que sempre procura dizer aos jovens nas palestras?
O valor do jovem está muito além do que se vê, imagina e sente. Seja o quanto, não seja um jovem rebelde, seja aberto à sociedade. Viver com aids é possível, com preconceito não é.

HIV/Aids

Aids (長官免疫不全症候群 - Koudan-sai Men-eki Fuzenshou Kougun). Significa síndrome da imunodeficiência adquirida. É uma doença que se manifesta com a infecção da pessoa pelo vírus HIV 1 e 2. Estes destroem as células nos portáveis pela defesa do nosso corpo (linfócitos) e deixam a pessoa vulnerável a inúmeras infecções e a doenças oportunistas.

Sintomas: Não é igual para todos, porém os sintomas iniciais geralmente são parecidos, com uma ou várias doenças febris persistentes, dor de cabeça, dor de garganta, dor muscular, manchas na pele, glândulas ou inguina inchadas do ânus, no pescoço ou na virilha. Com a evolução da doença e o sistema imunológico enfraquecido, podem surgir as doenças oportunistas, tais como: tuberculose, pneumonia, alguns tipos de câncer, cardiopatias, infecções

do sistema nervoso (toxoplasmose, meningites, etc.)

Formas de contágio: O HIV pode ser transmitido pelo sangue, sêmen, líquido pré-ejaculatório, secreção vaginal e também pelo leite materno.

Como se prevenir: Antes de uma relação sexual (oral, vaginal, anal), converse com o seu parceiro(a) e sempre utilize o preservativo. Se tiver relações sexuais sem camisinha e está preocupado, a melhor opção é fazer o teste. No centro de saúde (focário) é gratuito, nas clínicas e hospitais esse exame é cobrado.

Tratamento: A aids ainda não tem cura, mas o portador do HIV, hoje, tem uma série de medicamentos que o ajudam a manter a saúde e uma vida quase normal.

Fonte: Vida Adolescente, da NPO Criança (http://www.vidadolescente.sakura.ne.jp)

a. ブラジル人学校における HIV 関連の予防介入（講演会）後の評価：

学校を対象に行った HIV 予防教育プログラムを評価するために、2つの方法を取り、1つ目は上記の講演会の2週間後に生徒への影響を調べるために4校にてグループインタビューを実施した。

そして、さらに講演会の約2ヵ月後にフォローアップ調査を行った。

I [グループインタビュー]

予防介入の評価を調べるためのグループインタビューを実施し、グループインタビュー録音のテープお越しをして、内容分析を行った。

グループインタビューに参加した生徒の話から得られた内容は次のとおりである：

1-講演会全体の印象：

「同じ年の人から話を聞けて、よかった」(女子 15 歳)

「自分の経験を話したので、飽きない話だった」(女子 13 歳)

「僕たちも似たような経験をしているので、聞いてよかった」(男子 17 歳)

「興味深かった、“現在”であるから」(男子 16 歳)

「話しが分かりやすかった」(女子 16 歳)

「彼、カッコいいから面白かった」(女子 14 歳)

2-講演会の話の内容で最も記憶に残っているもの：(最も多い内容順)

① 家族や両親への感謝、愛しい思い

「家族を大切に思う気持ち」(女子 16 歳)

「父親の話をしたとき、僕も同じ気持ちを持っているから」(男子 16 歳)

「両親の話し、僕も父に愛していると聞いた」(男子 17 歳)

「両親の話し、私はいつも愛しているというけど、もう一回言った」(女子 15 歳)

「家族の話、大事に思わなきゃと思った」(男子 16 歳)

「親は本当は僕たちを愛していることに気づいた」(男子 17 歳)

② 予防・避妊について

「彼の本モカノたちを見せた」(女子 13 歳)

「自分の体を大事にしない女の子とは付き合わない」(女子 15 歳)

「コンドームを見せた」(男子 16 歳)

「コンドームは強いこと」(女子 14 歳)

「学校で、講演会の前に研究をした、性病について、気持ち悪い、掛かりたくない」(男子 16 歳)

「予防と責任感」(女子 16 歳)

③ 人権や偏見について

「偏見の話し、黒人やゲイに対して」(男子 16 歳)

「偏見が無くなった時の話し」(女子 13 歳)

「社会の偏見」(女子 15 歳)

「彼が HIV 陽性者、黒人、ゲイへの偏見を持っていたけど、今はない」(女子 14 歳)

「偏見は無価値である」(男子 15 歳)

④ HIV 陽性者であること

「感染しても皆と同じ」(女子 13 歳)

「感染しても彼女は普通に持っている」(女子 14 歳)

「HIV に感染しているから、彼女には言うべきだ」(女子 13 歳)

⑤ 欠点やよくないと思ったこと

生徒からは全くそのような意見は見られなかった。

また、生徒以外のインタビューで、参考に講演会に参加した教師にインフォーマルな聞き取りをし、次の内容であった：

教師からのプラス評価：

「子供たちと同じ目線で話した」(女性、教師兼保護者)

「言葉使いが生徒と同じなので、よかった」(女性、教師)

「生徒がこんなに夢中になって話を聞いて

ているのを見たのははじめて」(女性、教師)
「同じ年齢なので、よかった」(男性、教師)

(男性、教師)

「時間のペース配分がまだ未熟であると
感じた」(男性、教師)

教師からのマイナス評価：

「自己中心過ぎたかも」(男性、教師)
「自分のモトカノたちの話しで終わると
思った(この部分を長すぎると感じた)」
(女性、教師)
「HIV 予防の話しをもっと期待していた」

II [事後アンケート調査]：現在、回収中
である。(予定より遅い回収ペースであるた
め、今年度の報告書へのは不記載で、来年
度の報告書に記載予定)

『考察』

① 当研究グループのホームページにおけるアクセス状況

ホームページの開始以来において、全体的に調べると、アクセス数が増加しているにも見られる。しかし、当研究グループがホームページの周知拡大介入を実施した時としていない時を比較し、詳しくその中身を分析すると、下記のことが判明した：

1-ブラジル国からのアクセスが非常に増加している(非介入期：524 セッション → 介入期：1,502 セッション)

2-ブラジルからのアクセスは1ページのみを留まっていた、内容にはたどり着いていない(セッション当たりの回覧ページ数- 非介入期：1.54 ページ → 介入期：1.17 ページ)

3-ブラジル国からのアクセスは「コンドーム」と「virgin」への言葉に敏感で、アクセス者と当ホームページの内容がマッチしていないことから、離脱率が高いと考えられる(検索ワードにおけるセッションアクセスの多い順 - 「コンドームの種類」：非介入期は300 ページビュー数 → 介入期は685；「virgin であることについて」：非介入期は2 ページビュー数 → 介入期は411)

4-しかし、当研究グループは、ブラジル

国への周知拡大への介入はしていないため、なぜブラジル国からのアクセスが急増しているかは不明であり、今後の分析が必要とされる。

5-日本国内からのアクセスは非介入期と介入期を比較したところ、介入期ではアクセスが減少していることが判明した(非介入期：525セッション → 介入期：415セッション)

6-また、日本からのアクセスにおけるセッションあたりの回覧ページ数も僅かであるが、減少気味であった(非介入期：3.70 ページ → 介入期：3.19 ページ)

7-しかし、同じく日本からのアクセスではホームページへの平均滞在時間に関しては変更がないことから、ホームページにアクセスしている人は確実に内容を読んでいると考えられる(非介入期：2分43秒 → 介入期：2分43秒)

8-日本国内の検索ワードにおける内容を調べると、非介入期と介入期の比較により、より多内容に広がり、例えば、「若者との話し合い」(非介入期：0 → 介入期：92)；「HIV 検査について」(非介入期：15 → 介入期：56)；「Gabi

のブログ - 女性若者をつぶやきブログ」((非介入期:0 → 介入期:33)などの内容から、アクセス件数は減少していても、多義にわたるテーマにアクセスがあるため、当ホームページ目的の一部は達成させていると考えれる

9-しかし、今後は、国境および場所を問わないインターネット環境をより有効利用して、よりアクセスの増加を目標にホームページの改正、周知拡大介入の強化、などが必要とされている。また、受動的なホームページに加えて、

今後はソーシャルネットなども利用し、インターネットをより行動的な方法で利用する必要があると考えれる。

10-そして、パソコンにおけるネット接続者に限らず、携帯端末を介してのアクセス拡大を目的にホームページをより小さい画面でも読みやすいフォーマットに改正する必要があると考えれる (iPhone - 非介入期:2 → 介入期:40; SybianOS - 非介入期:0 → 介入期:7)

② ブラジル人学校生徒を対象とした直接的介入

1- 介入前の調査結果において、次のことが見られた:

a. 生活パターンとしては、ブラジルと日本を行き来している状況は以前として大きな変化が見られず、約4割が日本とブラジルの往復を繰り返している(「以前にも日本に住んだことがある」:男女共に約4割)

b. 特に女子の間では、将来は「ブラジル」にて送ると言う希望が増加している(「ブラジルで大学進学が希望」:2008年度調査は約6割 → 今年度の調査は約8割)、しかし、男子では継続的に「ブラジルで大学進学したい」と言う希望は6割に留まっている。

c. HIV 関連の知識については、過去の調査でも見られ、全体的に女子の知識度が男子より高いものであった(過去の研究班報告書を参照)

d. また、依然として、「避妊・STD/HIV 予防」への「希望」と「実現力への assertiveness」のギャップは大きいものであった。

e. 「性経験」の有無に関しては、2008年度調査と2010年度調査を調べると、同じ年齢の男女を比較により、「性経験者群」が少ないこと判明し、これは、母集団の数及び、年齢のマッチングの差によるものでもありとされるが、この年代における性経験者そのものの減少を示唆する可能性も考慮する必要がある。

従って、介入の講演会、また、ホームページ作成などでは、性経験がまだない若者をメインの対象であることを念頭にもって、「HIV 予防」に限らず、「自分や周りの他の人を大事に、責任のある性」へのテーマに重みをおいた。

(2008年度の調査結果)

「セックス」の経験率(男女・年齢別)			
女子	13-15歳	18.4%	(50/272)
	16-21歳	39.2%	(85/217)
男子	13-15歳	11.5%	(26/226)
	16-21歳	38.1%	(74/194)

(2010年度の調査結果)

性別	経験の有無	「性経験」	
		人数	有効%
女子	経験あり	3	7.3
	経験なし	38	92.7
	合計	41	100.0
男子	経験あり	3	7.3
	経験なし	38	92.7
	合計	41	100.0

③ ブラジル人学校生徒を対象とした直接的介入の評価

介入後のグループインタビューの内容分析から、次のような結果が得られた：

- a. 生徒と教師の講演者への印象、意見は異なったことから、若者が求めている講演内容等は大人が提供したいものとは大きな差があることが明らかになった。
- 従って、ピアによる介入等は重要なツールであることが強調されたと考えられる。

- b. 若者が求めているものは、少なくとも、

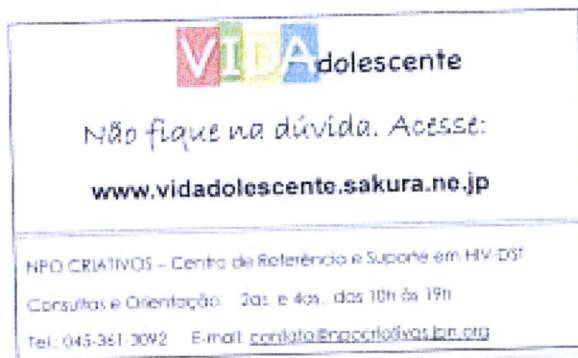
印象や記憶に残るものは、HIV 予防や避妊に限る内容ではなく、今現在、実際に経験している様々な出来事やこのような出来事をどのように対処するかについてへの興味が最も大きいと示唆されたと考えられる。(「講演会で印象・記憶に残った内容」：最も多い回答が、「両親や家族の話」)

参考文献



- 1) 「在留外国人統計」、平成 20 年版。法務省入国管理局編「出国人管理」。
- 2) 「若者における HIV 感染症の性感染予防に関する研究」平成 19, 20, 21 年度報告書

参考資料 1

(ホームページアドレス記載のカード)



参考資料 2 (学校における予防介入の事前調査票)

QUESTIONÁRIO – 2010

OBJETIVO: ESTE QUESTIONÁRIO SOBRE “SAÚDE, SEXUALIDADE E PREVENÇÃO NAS ESCOLAS” TEM COMO OBJETIVO CONHECER A SITUAÇÃO DOS ADOLESCENTES E JOVENS BRASILEIROS RESIDENTES NO JAPÃO, ESPECIALMENTE, EM RELAÇÃO À EPIDEMIA DE HIV E SEXUALIDADE.



ESTE QUESTIONÁRIO PODE TOCAR EM TEMAS DELICADOS, MAS PEDIMOS QUE RESPONDA O MÁXIMO DE PERGUNTAS POSSÍVEL, POIS A SUA RESPOSTA SINCERA É MUITO IMPORTANTE PARA CONSTRUIR MELHORES PROGRAMAS DE PREVENÇÃO E CONSCIENTIZAÇÃO ADEQUADOS À NOSSA COMUNIDADE.


NÃO ESCREVA SEU NOME NO QUESTIONÁRIO.
VOCÊ TEM TOTAL LIBERDADE DE NÃO RESPONDER O QUE NÃO DESEJA.

AGRADECEMOS PROFUNDAMENTE SUA COLABORAÇÃO.

Este questionário faz parte do Projeto de Saúde Sexual e Prevenção de HIV/DST nas escolas brasileiras, um projeto em parceria da AEBJ e CRIATIVOS.

CRIATIVOS – Centro de Referência e Suporte em HIV-DST
Associação das Escolas Brasileiras no Japão
Grupo para o Bem-estar e Saúde Social do Jovem, do Ministério da Saúde, Bem-Estar e do Trabalho do Japão

 **Maires informações:**
Centro de Referência e Suporte em HIV-DST
241-0821 Yokohama Asahiku Futamatagawa 1-82-21
TEL:045-361-3092 (2a. e 4a. feira, das 10:00 às 19:00 hs)
FAX:045-360-2093 E-mail: elisaa@belga.ocn.ne.jp

Gostaríamos de ler algumas informações pessoais.

1- Qual é seu sexo? () Feminino () Masculino 2- Qual é sua idade? _____ anos

3- Em que série você está? _____ série do _____

4- Sobre você e o Japão:

- () Nasci no Japão e nunca fui ao Brasil
- () Nasci no Japão e fui ao Brasil algumas vezes somente a passeio
- () É a primeira vez que vi o Japão e estou há _____ anos e _____ meses
- () Já viajei no Japão outras vezes e agora estou há _____ anos e _____ meses

5- Quais os seus objetivos para o futuro? (Pode marcar até 3 respostas)

- () Terminar o ensino médio
- () Morar no Japão
- () Fazer faculdade no Brasil
- () Ter um emprego no Japão
- () Ter um emprego no Brasil
- () Fazer faculdade no Brasil e voltar para o Japão
- () Morar no Brasil
- () Ser um bom profissional no Brasil
- () Trabalhar um pouco no Japão e depois voltar para o Brasil
- () Fazer faculdade no Japão
- () Outros _____
- () Ser um bom profissional no Japão

6- Você gosta de morar no Japão?

- () Adoro
- () Não gosto muito
- () Gosta bastante
- () Destesta
- () Gosta mais ou menos
- () Não sei

7- você acessa ou já acessou a internet?

- () Sim
- () Não

A) Em caso de Sim, com que frequência você acessa a internet?

- () Todas as dias
- () 3-4 vezes/semana
- () 3-4 vezes/mês

B) Quando você entra na net, quanto tempo você fica conectado? e _____ hs

C) Qual a principal objetivo de entrar na internet? _____

D) Marque as experiências que você já teve na internet? (pode marcar mais de 1 resposta)

- () Fez amizade por internet
- () Foi chamado(a) para se encontrar com alguém que conheceu na net
- () Chamou para se encontrar com alguém que conheceu na net
- () Entrou em site pornô (de sexo)?
- () Não teve nenhuma dessas experiências.
- () Outras _____

8- Você já teve alguma das experiências abaixo? (pode marcar mais de 1 resposta)

- () Fumou cigarro → (fuma atualmente? : Sim : Não)
- () Experimentou bebida alcoólica → (bebe atualmente? : Sim : Não)
- () Foi pega(o) para sair com um adulto (enjokeuna)
- () Usou algum tipo de droga (Qual? () maconha () speed () cocaína () cristal () outra: _____)
- () Pegou alguma coisa de loja sem pagar (maniki)
- () Sofreu algum tipo de violência física ou verbal (jime)
- () Sofreu algum tipo de abuso sexual
- () Bateu ou machucou alguém
- () Feriu seu próprio corpo de propósito (= auto-mutilação: cortar o pulso com estilete, queimar com ponta de cigarro, furar com alfinetes, etc.)
- () Não teve nenhuma das experiências acima
- () Outras: _____

F. Agora, vamos fazer algumas perguntas bastante pessoais, tá ?

9- Você "ficou" ou "ficou" com alguém?

- () Sim -----> A) Quantos anos você tinha quando ficou pela 1ª vez? _____ anos
- () Não -----> B) Quantos anos tinha a pessoa que você ficou pela 1ª vez? _____ anos
- C) Com quantas pessoas você "ficou" até hoje? _____ pessoas
- D) Com quantas pessoas você "ficou" nos últimos 6 meses? _____ pessoas

10- Você namora ou namora firme alguém?

- () Sim -----> A) Quantos anos você tinha no seu 1º namoro firme? _____ anos
- () Não -----> B) Quantos anos tinha a pessoa que você namora pela 1ª vez? _____ anos
- C) Quantos namorados(as) firmes você teve até hoje? _____ pessoas
- D) Quantos namorados(as) você teve nos últimos 6 meses? _____ pessoas